

国土交通省

北海道運輸局

Hokkaido District Transport Bureau

平成28年7月22日

平成28年

「地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰」を

陣川あさひ町会・函館バス(株)・函館市 が受賞します!!

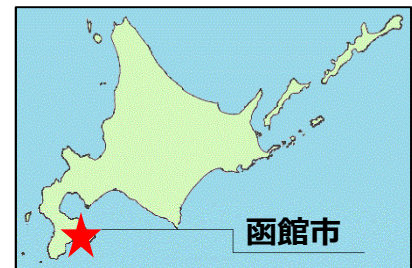
この度、地域公共交通の確保・維持の積極的な取組が認められ、北海道運輸局管内の陣川あさひ町会・函館バス(株)・函館市を含む5団体が受賞することとなりました。

この取組においては、三者が協働して、「陣川あさひ町会バス（Jバス）」の実証実験運行を行い、町会による住民ニーズに合わせた施策の実施、バス事業者及び市による後方支援により3年間一定の利用者を確保。結果、路線バスとして本格運行を実現するだけでなく、地域にバス利用の気運を醸成し、既存バス路線の利用者増加にも寄与したこと等が評価されたものです。

北海道では、4団体目（H21当別町、H23弟子屈町、H27帯広市地域公共交通活性化協議会）の受賞となります。

〔表彰式〕

- ・日時 平成28年7月29日（金）14：00～
- ・場所 国土交通省 10階共用大会議室
東京都千代田区霞が関2-1-3
中央合同庁舎3号館



（当日は、西川孝一陣川あさひ町会会長を始め4名が出席予定です。）

※功績概要等は、添付資料をご覧ください。



Jバス調印式



Jバス出発式



リーフレット



温泉ツアーイベント

《本表彰制度の目的》

本表彰制度は、地域公共交通に関する取組が他地域の模範となるような、顕著な功績がある団体を表彰することで、優良事例の情報提供等を図ることを目的に、平成21年から実施しています。

（表彰実績）http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000042.html

添付資料：受賞者名簿、取組実績

【問い合わせ先】 北海道運輸局交通政策部交通企画課 山本・平澤
TEL：011-290-2721（直通）

公共交通利用促進キャラクター
のりたろう



陣川あさひ町会・函館バス(株)・北海道函館市

(北海道函館市)

3者が協働し、実証実験「陣川あさひ町会バス（Jバス）」を運行。
住民要望に合わせた利用促進策や後方支援を行い、路線バスとして本格運行を実現。
取組の結果、地域にバス利用の気運が醸成され、他路線の利用者も増加。

(取組の概要)

1. 行政の補助金に頼らない実証実験運行

- 3者が協議を重ね、平成24年4月、町会が貸切バスを契約し、行政の補助金を受けずに運営を行う、実証実験「陣川あさひ町会バス（Jバス）」を開始。
- 北海道函館市は地域交通を維持するモデルケースとして位置付け、各種調整を行うほか、リーフレットや利用券の作成・印刷などを支援。

2. 迅速な運行計画変更や利用促進等による収支改善

- 町会は、住民へのわかりやすいPRやJバスで行く温泉ツアー企画等の取組により、利用促進を図ったほか、車内広告募集や手作りグッズ販売等により運行収入の不足分を確保。
- 地元大学生に車内アンケート調査の協力を依頼し、利用者ニーズを把握。住民からの意見や乗降データを速やかに検証し、利便性の向上や効率化を実施。
- 函館バスは、町会や同社が発掘した車内広告掲載企業からの広告収入を町会の収入とするとともに、手作りグッズの販売に協力。

3. 地域が支える路線バスとして利用者が増加

- 3者の協力体制と町会の熱意により、3年間一定の利用客を維持できたことから、函館バスが路線バス「9-J系統」として、平成27年4月より本格運行を開始。
- 本格運行開始後、町会は、引き続き情報発信、イベント活動を行うとともに、車内広告募集の函館バスへの協力を実施。
- 函館バスと北海道函館市が後方支援に徹したこと、地域のバスという意識が醸成され、「9-J系統」は実証実験時の利用者を上回り、また、地域におけるバス利用の気運が高まった結果、従来から路線バスとして運行していた「6-2系統」の利用者も増加。



3者が集まったJバス調印式



実証運行リーフレット



Jバス出発式



小学生デザインのパス停



温泉ツアーイベント



陣川町地区における1日当り利用者数





【国土交通大臣 + 陣川あさひ町会・函館バス(株)・函館市】



【国土交通大臣 + H28 受賞者】